

建設業の魅力を伝える広報の取り組み



県北建設事務所 企画調査課
副主査 吉田憲弘

～「担い手不足」の解消に向けた新たなチャレンジ～

1. はじめに

私たち土木部職員には、社会資本の整備はさることながら、建設業を「地域を支える活力ある産業、かつ持続的に発展していけるもの」として、次の世代へと引き継いでいく責務がある。そのため、「建設業の振興」についても積極的に取り組んでいかなければならない。

2. 問題と解決へ向けたプロセス

<問題>

県内の建設業においても
「担い手不足」が深刻

- ・若年層の就業者の大幅な減少
- ・高齢化の進行と大量退職

<課題>

**建設業への理解を
促進させ、イメージを
向上させること**

<解決策>

建設業の魅力を効果的に伝える広報

<3つの新たな取り組み>

- ①戦前の工事記録写真を活用した広報
- ②貫通石を活用した広報
- ③高校球児と一緒につくるあづま球場

3. 【取り組み①】戦前の工事記録写真を活用した広報

- ・事務所書庫より「戦前の建設工事に関する記録写真」を発見
- ・「**今昔フォトギャラリー**」を事務所ホームページに開設
- ・「今と昔」の写真の対比や、当時を知る人からのコメントを掲載することで時代の背景を伝えるとともに、**建設業の魅力を紹介**
- ・**県内外にとどまらずアメリカからも反響があった。**
- ・今後は、コラッセふくしまや県立図書館で写真展を開催

県北建設 今昔フォトギャラリー 記録No. 3 福島駅前通り

昭和10年頃の姿（戦前）



【当時の写真の概要】

これは、昭和初期の敷石舗装の施工中の写真であると推定されます。この場所は、現在は市道となっていますが、当時は県の管理する県道福島停車場線でした。

現在も、歩道はレンガ調の舗装となっており景観を大切にしている箇所ですが、当時から敷石舗装にすることで、より綺麗な街並みを目指していたように思われます。

平成30年の姿



【当時の写真より気づいた点】

- ・現場の監督員は、座り込んで作業状況をよく確認しているようだ（写真①位置）
- ・作業をしている人が、お洒落なハットやベストを着用しているようすが新鮮である。

【当時を知る人からのひと言】

- ・「敷石の噛み合わせを一つ一つ確認しながら、丁寧な手作業で仕事をしているようすがよくわかる。」

ホームページに掲載している説明文の一例

4. 【取り組み②】トンネルの貫通石を活用した広報

- ・H30. 11月に 国道114号 泡吹地トンネル(川俣町内)が貫通
- ・トンネル貫通石は「安産」、「受験合格」、「大願成就」のお守りとして **建設業界では昔から重宝。しかし、一般の方へは浸透していない**
- ・この隠れた建設工事の魅力を広く発信し、建設業への理解促進につなげるため、貫通石を活用した以下の取り組みを実施
 - (1) 川俣町内の **中学校に貫通石を展示** (H30.12月～)
 - (2) **約800個の貫通石をプレゼント** (H31.1月10～11日)
 - (3) 川俣町内の **妊婦さんへの貫通石プレゼント** (H31.1月22日～)



展示した貫通石



中学校での展示状況



配布した貫通石



プレゼントの配布状況

5. 【取り組み③】高校球児と一緒に作るあづま球場

- ・2020東京五輪へ向けあづま球場の改修工事に今年度着手
- ・高校球児が改修工事の一部を作業することにより、**あづま球場に愛着をもってもらい、同時に建設業を身近に感じてもらう**取り組みを実施(H30.12月)
- ・人力での天然芝はがしと芝の運搬を実施してもらった。
- ・作業後のアンケート結果では、**作業をとおして建設業に興味を持った学生が80%を超えた。**

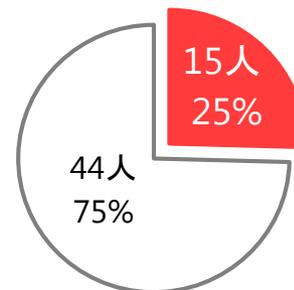


天然芝の運搬作業のようす

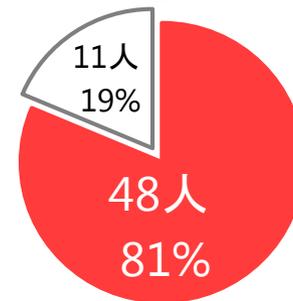
【高校球児へのアンケート結果】

作業前まで、将来の職業として、建設業に興味があったか？

作業をとおして将来の職業として、建設業に興味を持ったか？



- 興味があった
- 興味なかった



- 興味を持った
- 興味を持たなかった

6. おわりに

- ・今後も前例にとらわれることなく、「建設業の魅力」を伝える効果的な取り組みを実施していきたい。